

# 中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム



Ishitobi

## 基調講演

石飛幸三（世田谷区立特別養護老人ホーム 芦花ホーム）

「変革の時を迎えた高齢者終末期医療」

### PROFILE

石飛 幸三

<略歴>  
S36年 慶応大学医学部卒業  
S45年 ドイツ、フェルディナント・ザウアー  
ブルップ記念病院で血管外科医として  
約2年間勤務  
S47年 東京都済生会中央病院 勤務  
H5年 同病院副院長  
H17年 12月より芦花ホームに勤務

従来より、回復不能状態にあって人工的な栄養管理を行い生命を永らえさせることが人間の尊厳を冒すことになるのではないかという論議がおこなわれてきた。近年胃ろう増設の技術が進歩し、その適応についての論議がおこなわれないまま、主として施行側の積極的な活動による広がりを見せている。

胃ろう増設についての論議は死生観のみならず、医療行為に対する情報提供と意思決定のプロセス、高齢者・認知症の増加、医療介護福祉費用の増加、年金授受の問題、機能分化による急性期病院入院日数の減少誘導と受け入れ先療養型病院の労働加重など多くの問題を内包している。

このパネルディスカッションではPEGの現状と我々の医療の持つ問題について明らかにし、討論することで、幸せな地域を作るための方策について検討する。

日時 平成23年 7月18日(月)  
13:00~15:20

場所 さん太ホール

入場無料 聴講券が必要です。

## 胃ろう(PEG)に関する パネルディスカッション

「口から食べられなくなったとき、あなたは、家族は、どうしますか？」

### プログラム

開会挨拶 (13:00~13:05)

谷本光音 (中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム 代表)

基調講演 (13:05~13:50)

石飛幸三 (世田谷区立特別養護老人ホーム 芦花ホーム)



パネルディスカッション (13:50~15:20)

- 司 会 / 松岡 順治 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 緩和医療学講座 教授)
- 石飛 幸三 (世田谷区立特別養護老人ホーム 芦花ホーム)
- 会田 薫子 (東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター 特任研究員)  
「認知症終末期における人工的水分・栄養補給法の考え方」
- 菅崎 仁美 (岡山訪問看護ステーション看護協会 所長)  
「胃ろう (PEG) 施行患者さん・家族の現状」
- 合田 文則 (香川大学医学部付属病院 総合診療部 准教授)  
「To LIVE with PEG or DIE? - 胃ろう患者の尊厳のために -」
- 曾我 賢彦 (岡山大学病院 中央診療施設 医療支援歯科治療部 助教)  
「胃ろう (PEG) 増設と肺炎」
- 橋本 俊明 (株式会社メッセージ 代表取締役会長)  
「胃ろう (PEG) を誰が望むのか？」
- 松岡 順治 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 緩和医療学講座 教授)  
「長生きすること」

主催 / 中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム・岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 緩和医療学講座  
協賛 / 岡山大学医学部 150周年ルネサンス  
後援 / 岡山県・岡山県医師会・岡山大学医師会・岡山県看護協会・岡山県病院協会  
岡山県介護福祉士会・岡山県社会福祉士会・岡山県薬剤師会・岡山県愛育委員連合会・山陽新聞社・テレビせとうち

お問い合わせ・お申し込み  
事務局 086-803-7017  
FAX 086-803-7037  
なないろ組 検索

お名前 年齢 TEL  
住所 e-mail

※この個人情報は当目的の使用にのみ、収集・利用いたします。本人の同意を得ることなく、個人情報を第三者に開示・提供することはありません。